

業績／主要な経営指標等の推移

Sendai Bank

経済環境

平成29年9月期における国内経済は、企業収益が引き続き改善傾向で推移し、個人消費や設備投資で持ち直しの動きがみられたことなどを背景に、緩やかな回復基調で推移しました。先行きについては、景気回復への期待感が高まる一方で、新興国等の海外景気の減速に対する懸念や、地政学リスクの高まりなどを踏ま

え、引き続き不透明な状況となっております。

当行の営業エリアである宮城県経済は、生産の回復が続き、求人倍率が高水準で推移するなど、緩やかに回復しているものの、住宅・公共投資や個人消費などに弱い動きがみられました。

仙台銀行

■業績

このような経済環境のなか、当行は、「じもとグループ」として、「お客さまに喜ばれ、信頼され、『じもと』とともに進化・発展する新たな金融グループを創設する」という経営理念のもと、グループ役職員が一丸となって宮城と山形をつなぎ、両県の経済交流の発展に貢献してまいりました。また、3ヵ年計画の最終年度となるじもとグループの中期経営計画では、「本気の本業支援」と「本気の統合効果発揮」の2本柱を掲げ、県境を越えた地域金融グループの特徴を最大限に発揮するため、「本業支援」を中核とするビジネスモデルを更に進化・発展させるとともに、経営効率化・合理化に取り組むことで、更なる統合効果・相乗効果の発揮を目指し取り組んでおります。

損益状況につきましては、経常収益は、有価証券利息配当金や役務取引等収益、貸倒引当金戻入益が減少したことなどから、前年同期比5億97百万円減少の76億41百万円となりました。一方、経常費用は、役務取引等費用や国債等債券償還損、貸倒引当金繰入額が増加したことなどから、前年同期比2億44百万円増加の68億23百万円となりました。

その結果、経常利益は、前年同期比8億42百万円減少の8億17百万円となりました。

また、中間純利益は、前年同期比6億95百万円減少の8億21百万円となりました。

主要な経営指標等の推移（単体）

（単位：百万円）

決算年月	平成27年9月期	平成28年9月期	平成29年9月期	平成28年3月期	平成29年3月期	
経常収益	8,509	8,239	7,641	16,991	15,709	
経常利益	1,347	1,660	817	2,431	2,878	
中間（当期）純利益	1,238	1,516	821	2,115	2,634	
資本金	22,485	22,485	22,485	22,485	22,485	
発行済株式総数	普通株式	7,564 千株	7,564 千株	7,564 千株	7,564 千株	7,564 千株
	第1種優先株式	20,000 千株	20,000 千株	20,000 千株	20,000 千株	20,000 千株
純資産額	48,333	48,520	51,421	48,159	50,377	
総資産額	1,140,691	1,100,219	1,114,210	1,090,044	1,129,917	
預金残高	892,227	904,311	919,976	878,670	947,181	
貸出金残高	632,231	656,441	677,194	653,186	672,562	
有価証券残高	400,425	348,248	346,551	378,902	347,455	
1株当たり純資産額	2,420.64 円	2,446.15 円	2,830.63 円	2,397.65 円	2,691.62 円	
1株当たり中間（当期）純利益金額	160.72 円	198.34 円	107.40 円	273.66 円	343.89 円	
潜在株式調整後1株当たり中間（当期）純利益金額	62.94 円	75.55 円	43.90 円	107.51 円	131.21 円	
1株当たり配当額	普通株式	17.87 円	17.87 円	17.87 円	35.75 円	35.75 円
	第1種優先株式	1.12 円	0.82 円	0.45 円	2.25 円	1.65 円
単体自己資本比率（国内基準）	10.10 %	9.66 %	9.46 %	9.85 %	9.51 %	
従業員数 （外、平均臨時従業員数）	719 人 (311 人)	704 人 (297 人)	717 人 (286 人)	690 人 (311 人)	677 人 (297 人)	

（注）1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。